

催吐リスク Moderate

腸(研)(BEV7.5+CPT150)d1+s-1/d1-14/21d

薬剤名	投与経路	投与量	希釈液	点滴時間(分)	投与日(day)
テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤	経口		mg		1-14
			mg		
パロノセトロン	注射	0.75	mg		1
デキサメタゾン	注射	6.6	mg	生食 100 mL	30 1
アバスチン	7.5	mg/kg	生食	100 mL	15 1
イリノテカン	150	mg/m ²	生食	500 mL	90 1
				mL	
				mL	
				mL	

内服薬

デキサメタゾン 8mg 分2 朝昼食後 day2,3

投与基準等

Ⅱ. 投与基準 (例:白血球 $\geq 2000/\text{mm}^3$ 、好中球 $\geq 1000/\text{mm}^3$)好中球数 $\geq 1,500/\text{mm}^3$ 、血小板数 $\geq 100,000/\text{mm}^3$ 、AST・ALT $\leq 100\text{U/L}$ (肝転移症例は $\leq 200\text{U/L}$)、総ビリルビン $\leq 2.0\text{mg/dL}$ 、血清クレアチニン $\leq 1.2\text{mg/dL}$ 、下痢・口内炎・皮疹 $\leq \text{Grade}1$

Ⅲ. 減量基準 (例: Grade3 以上の好中球減少時、次回より投与量を80%に減量)

詳細については添付参考資料(研究計画書)を参照のこと。

ティーエスワン

好中球減少 \geq Grade4、血小板 \geq G3、AST・ALT $>$ 200U/L、血清クレアチニン \geq 1.5mg/dL、下痢・口内炎 \geq Grade3 時、次回より投与量を減量基準に従い減量する。(120 \rightarrow 100 \rightarrow 80 \rightarrow 60 \rightarrow 50(最低投与量)2段階、もしくは最低投与量を越える減量の場合は投与中止)

塩酸イリノテカン

好中球減少 \geq Grade4、血小板 \geq G3、AST・ALT $>$ 200U/L、下痢 \geq Grade3 時、次回より投与量を減量基準に従い減量する。(150 \rightarrow 125 \rightarrow 100(最低投与量))

ペバシズマブ

無し。

Ⅳ. 重大な副作用 (例:好中球減少 Grade3 以上37.5%)

詳細については添付参考資料(研究計画書)を参照のこと。

第46回癌治療学会総会 (2008)報告、G3以上の副作用の発現率は記載(n=25)

好中球減少 20%、白血球減少 15%、ヘモグロビン減少 4%、食欲不振・下痢 12%、悪心・疲労 4%

添付参考資料(文献・ガイドライン・治験計画書・研究計画書)

進行・再発大腸癌に対する TS-1+Irinotecan+Bevacizumab 併用療法臨床試験実施計画書